

野菜畑作生産情報 第7号

平成30年10月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆は、適期収穫で良品生産に努めましょう！
◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！
◎ながいもは、適期収穫で良品生産に努めましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

ア 成熟期は、平年よりも早まっており、おおむね収穫適期に達している。

表-1 大豆の生育状況

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
十和田市	本年 (平比)	6/ 8 (2日遅)	6/20 (6日遅)	8/ 1 (3日早)	10/ 9 (8日早)
	平年	6/ 6	6/14	8/ 4	10/17
	前年	6/ 6	6/17	7/31	10/21

注) 平年値：平成13年～29年

(2) 今後の留意点

ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下（主茎の中央部を爪でこすったとき、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20%以下となった時期である。

イ 収穫

(ア) 収穫が遅れると被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に刈取りを行う。

(イ) ほ場内の雑草や青立ち株は汚粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

(ウ) 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後4時）に実施する。

(エ) コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

ウ 乾燥調製

(ア) 乾燥は、検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。

(イ) 循環式乾燥機では、子実水分18%までは通風のみで乾燥させる（乾燥速度0.3%毎時以下）。また、循環速度をなるべく遅くし、しわ粒や裂皮粒などの発生を抑える。

(ウ) 静置式乾燥機では、送風温度を30℃以下とし、穀温が外気温より15℃以上に上がらないよう設定して、ときどき攪拌しながら乾燥させる。

2 小麦

(1) 生育状況

ア は種後の生育は、おおむね良好である。

(2) 今後の留意点

ア 湿害を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。

イ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

ウ 紅色雪腐病、雪腐褐色小粒菌核病、褐色雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

野菜

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 生育は、平年を上回っている。

イ 10月上旬から茎葉の黄化が見られる。

表-2

ながいもの生育状況（10月10日現在）

場所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	茎葉重 (g)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/28 (1日早)	315.3 (71%)	7/19 —	66.4 (92%)	1,341 (99%)	72.8 (105%)
	平年	5/26	6/29	441.4	—	71.9	1,358	69.6
	前年	5/25	6/29	565.3	7/18	64.0	1,270	76.1
五戸町 上市川	本年 (平年比)	5/12 (1日早)	6/11 (5日早)	— (—)	7/3 (5日早)	86.7 (101%)	1,386 (107%)	66.5 (106%)
	平年	5/13	6/16	—	7/8	85.8	1,290	62.5
	前年	5/8	6/8	—	7/12	82.0	1,044	54.6
東北町 野田頭	本年 (平年比)	5/6 (10日早)	6/3 (7日早)	— (—)	7/10 (1日早)	68.5 (98%)	1,175 (121%)	55.8 (97%)
	平年	5/16	6/10	—	7/11	69.8	971	57.6
	前年	5/16	6/12	—	7/10	64.0	909	62.9

注) ①平年：野菜研は平成19～29年の11か年の平均値。

五戸町は平成14～29年の16か年の平均値。

東北町は平成19～29年の11か年の平均値。

②種子：野菜研は園試系6の2年子（90～110g）頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子（120～150g）頂芽切除。

東北町は庄司系の1年子（50～80g）頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）。

五戸町は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）。

東北町は畦幅110cm×株間21cm（4,329株/10a）。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

（2）今後の留意点

ア 収穫

（ア）収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。

（イ）雨天など過湿な条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。

（ウ）掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当たることがないように注意する。

イ 茎葉・ネットの適正処理

（ア）茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

2 秋冬だいこん

（1）生育状況

ア は種期が平年より8日早く、出芽以降の生育は順調で、既に収穫期に達している。

表－3 秋冬だいこんの生育状況（本年は10月5日調査）

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)	収穫期 (月日)	は種から収穫までの日数 (日)
東北町 滝沢平	本年 (平年比)	7/31 (8日早)	43.2 (100%)	21.6 (101%)	1,136 (123%)	10/5 (6日早)	66 (2日遅)
	平年	8/8	43.1	21.3	927	10/11	64
	前年	8/5	42.9	19.2	582	10/24	80

注) ①平年：平成13年～29年の17か年の平均値。

②品種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅50cm×株間23cm、1条植え（8,696株/10a）。

（2）今後の留意点

ア 収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

3 冬のハウス栽培の留意点

（1）降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。

（2）二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。

- (3) ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間をふさぐ。
- (4) 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。
- (5) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
 - 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
 - 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
 - 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
 - 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。
-

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆してください。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

1 農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

2 農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
